

編集委員会からお願ひ

一、年報第一四集の原稿募集について

年報第一四集の原稿をつきの要領で募集します。御希望の方は、大会終了までに編集委員会の蓮見音彦まで御申込下さい。

(1) 論文は四〇〇字詰原稿用紙八〇枚を原則とし、原稿の一切は昭和五三年四月末日です。

(2) 申込にあたっては、論文題目(仮題でも可)に四〇〇字二枚程度の要旨をそえて下さい。

(3) お申込いただいた方には、編集委員会で検討の上、執筆要領についての詳細をそえて、あらためて執筆をお願いいたします。

二、年報第一三集の刊行について
『村落社会研究』第一三集が刊行されました。内容はつきの通りで、

大会当日会場で頒布します。郵送希望の方は、御茶の水書房へ村研会員と明記して御註文下さい。定価四千二百円ですが会員には二割引で頒布します。

共通課題「村落生活の変化と現状——農民にとっての生活破壊とは何か」

1. 島崎稔「安中鉛害と農民の“生活破壊”——法延闘争の論理と実証として」

2. 布施鉄治・白樺久・酒井恵真「家族協業体としての『家』と酪農民の生活——日本資本主義の発展と家・北海道大樹町旧T部落の事例分析を土台として」

3. 山本陽三・木下謙治・佐々木衛「イエとムラと伝統的価値觀——生活破壊を阻むもの・熊本県矢部町」

4. 米村昭二「べき地山村の統一と再編成——岡山県大佐町大井野の事例」

星永俊・多々良翼「近郊農村における稻作生産組織の展開と課題」

田原音和「フランス農村社会学の現状と課題」

吉村はきの「近世末期農村における『家』および家族の一考察」
研究動向

鷲田隆「史学・経済史学」

春日文雄「経済学」

長谷川昭彦「農村社会学の研究動向」

平松義「法社会学における村落研究の動向」